

# 熊本地域医療センターが 担う役割について

平成30年7月30日

一般社団法人熊本市医師会 熊本地域医療センター  
院長 清住 雄昭

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 自施設の現状

#### ・理念・基本方針

理念：かかってよかった。紹介してよかった。働いてよかった。  
そんな病院をめざします。

基本方針： 紹介型外来、 共同利用・開放型病院、 高度  
医療の提供、 救急医療体制への参画、 教育  
・研修による人材育成

#### ・診療実績

病床数：227床

入院基本料：急性期一般入院料1、HCU入院医療管理料1、  
小児入院医療管理料3、緩和ケア病棟入院料1、  
地域包括ケア病棟入院料2<sup>+</sup>

平均在院日数：10.7日(H29年度)

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

・職員数：423名（平成30年4月1日：非常勤・嘱託・臨時・パート含）  
医師：44名、看護職員：232名、コメディカル71名、事務職員：  
44名、その他：32名

### ・特徴

病床としては、急性期一般病床の他、小児科病床、緩和ケア病床、地域包括ケア病床、ハイケアユニット病床を有する。ハイケアユニット4床が高度急性期、その他の病床は急性期、回復期、慢性期機能で、緊急入院率が55.7% という病院である。

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### ・政策医療

地域医療支援病院、熊本県指定がん診療連携拠点病院、心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院、小児救急医療拠点病院、熊本県予防接種センターの施設認定等を受けている。また熊本市から委託された休日夜間急患センター事業を含めた救急医療(一次救急・二次救急)についても365日患者の受け入れを行っている。

### ・他機関との連携

当院は、医師会立の病院であり開設当初より病診連携のもと各医療機関との連携は十分に構築できている。

### 自施設の課題

・熊本市内には熊大病院をはじめ複数の公的病院が存在することから機能の一部重複がみられる。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

- ・熊本市医師会員のための急性期病院として今後も急性期医療を提供していく。
- ・現在、地域医療支援病院、熊本県指定がん診療連携拠点病院、心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院、小児救急医療拠点病院、熊本県予防接種センターの施設認定等を受けており、医療提供施設として引き続き整備していく。
- ・院内の地域包括ケア病棟を活用し、医師会在宅ケアセンターとの連携をさらに密にし、熊本市医師会員の後方支援としての機能を担う。
- ・熊本市民の安心安全のため今後も救急医療や熊本市から委託された休日夜間急患センターの役割を果たしていく。
- ・県アレルギー診療連携拠点病院の連携施設として協力する。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【 4 機能ごとの病床のあり方 その1 】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	4床	3床	3床
急性期	181床	161床	161床
回復期	28床 (地域包括ケア)	28床 (地域包括ケア)	28床 (地域包括ケア)
慢性期	14床 (緩和ケア)	12床 (緩和ケア)	12床 (緩和ケア)
その他			
合 計	227床	204床	204床

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

- ・当院は、昭和56年11月に熊本市医師会員の総意のもと、会員の共同利用施設、開放型病院として設立された。設立理念である 高度の診断機能をもつ高次対応の医療機関、 機器設備の共同利用と会員の生涯研修の場、 地域に対する24時間体制の救急医療を実践し、会員の後方支援病院として、地域の中核病院として高度急性期と急性期医療を提供してきた。現在も地域医療支援病院、熊本県指定がん診療連携拠点病院、心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院、小児救急医療拠点病院、熊本県予防接種センターの施設認定等を受けている。

### 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【 診療科の見直し 】

	現時点 (2018年4月時点)	2025年	理由・方策
維持	・内科、消化器内科、呼吸器内科、 循環器内科、代謝内科、外科、 消化器外科、小児外科、小児科、 放射線科、麻酔科、脳神経外科、 病理診断科、皮膚科		
新設	・アレルギーセンターを予定		国の施策としてアレルギー診療を強化する方針となっており、2018年度に各県に1～2箇所のアレルギー診療連携拠点病院が整備される予定であり、連携施設として協力する
廃止			
変更・統合			

### 3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2018年5月時点)	2025年
病床稼働率	82.2%	95%
紹介率	93.7%	95%
逆紹介率	139.2%	150%

## 3 具体的な計画

### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

#### 【取組みと課題】

#### 病床稼働率上昇への取組み

- ・ 医師会立病院としての、より一層の病診連携
- ・ 地域包括病床を活用した在宅医療の後方支援
- ・ 休日夜間急患センター事業の堅持  
(緊急入院率が高いので、常に入院できるベッドを確保しておく必要がある)
- ・ アレルギーセンターの新設